

令和4年度 いわき市病院事業会計決算の概要

- 1 当センターは、28の診療科を有し、病床数700床により、福島県浜通り地方の高度急性期医療を担う中核病院として地域住民の健康保持に必要な医療を提供しております。
- 2 年間総延患者数は、入院が171,831人、外来が219,838人であり、前年度と比較し、入院は9,326人の増加、外来は2,195人の増加となりました。入院は、主に整形外科、救急科の患者が増加し、外来は、主に整形外科、歯科口腔外科の患者が増加しました。
- 3 収益的収支は、収入が前年度に比べ3.6%増の255億3,711万1,343円、支出が前年度に比べ4.2%増の233億1,420万4,593円となり、22億2,290万6,750円の当年度純利益を計上することとなりました。
 - (1) 主な収益的収入としては、新型コロナウイルス感染症の「第8波」の影響で、一時期、医師が急を要しないと判断した手術等を延期するなどの対応を取ったものの、通年では紹介件数や救急車の受け入れ件数が増加するなど入院・外来いずれも患者数が増加したことから、医業収益が前年度に比べ5.7%増の187億85万1,994円となりました。なお、患者一人一日当たりの収入は、入院が80,744円、外来が19,575円であり、前年度と比較し、入院は164円の減少、外来は1,008円の増加となりました。一方、医業外収益は、補助対象病床数の減に伴う病床確保料の減などにより、前年度に比べ2.4%減の66億3,296万6,115円となりました。
 - (2) 主な収益的支出としては、期末・勤勉手当の支給月数の増や看護職員等の処遇改善に伴う給与費の増、患者数の増に伴う材料費の増などにより、医業費用が前年度に比べ3.9%増の220億1,862万7,677円となりました。
- 4 資本的収支は、医療器械の更新や、新病院建設時に借入れた地方債の償還に係る収入、支出が増加したことにより、収入が前年度と比べ9.3%増の19億1,607万3,778円、支出が前年度と比べ7.6%増の31億4,476万6,968円となりました。

医療器械は、医療業務の向上を図るため、全身用X線CT撮影診断装置、内視鏡カメラシステムや画像処理装置など110品目を6億8,045万5,941円で購入しました。
- 5 医業収益は、コロナ禍前の令和元年度水準まで回復しましたが、患者数は、入院・外来いずれも回復傾向にあるとはいえ、コロナ禍前まで戻り切っていないことから、財務基盤を強化させるには、患者を確保していくことが大きなポイントとなって参ります。

また、引き続き、新型コロナウイルスの感染状況に注視するとともに、地域の中核病院として、感染症への対応と救急医療や周産期医療といった通常医療との両立を図りながら、医療の質の向上と患者サービスの充実に努め、将来にわたり持続可能な病院経営の確立に努めて参ります。